

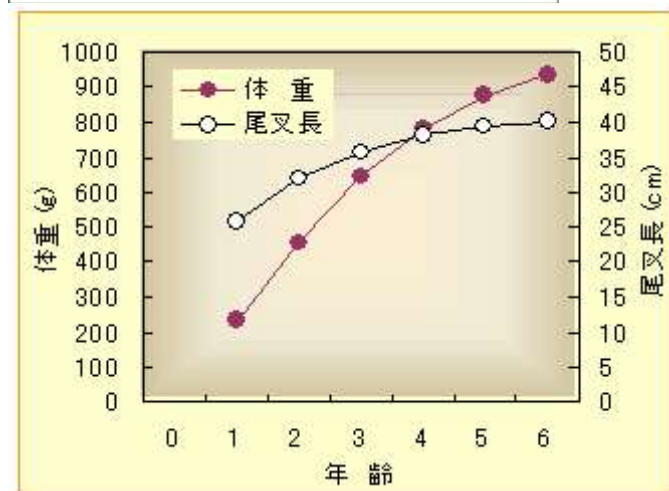
ゴマサバ *Scomber australasicus*

東シナ海系群 担当：西海区水産研究所



生物学的特性

- 寿命： 6歳
- 成熟開始年齢： 1歳（一部）、2歳（完全）
- 産卵期・産卵場： 冬～春季（1～5月）、東シナ海南部、薩南海域
春夏に索餌のため北上回遊を秋冬に越冬・産卵のため南下回遊をする
- 索餌期・索餌場： する
マサバよりやや南方域に分布
- 食性： 幼魚はイワシ類の稚仔魚や浮遊性の甲殻類などを、成魚は動物プランクトンや小型魚類を捕食する
- 捕食者： 不明



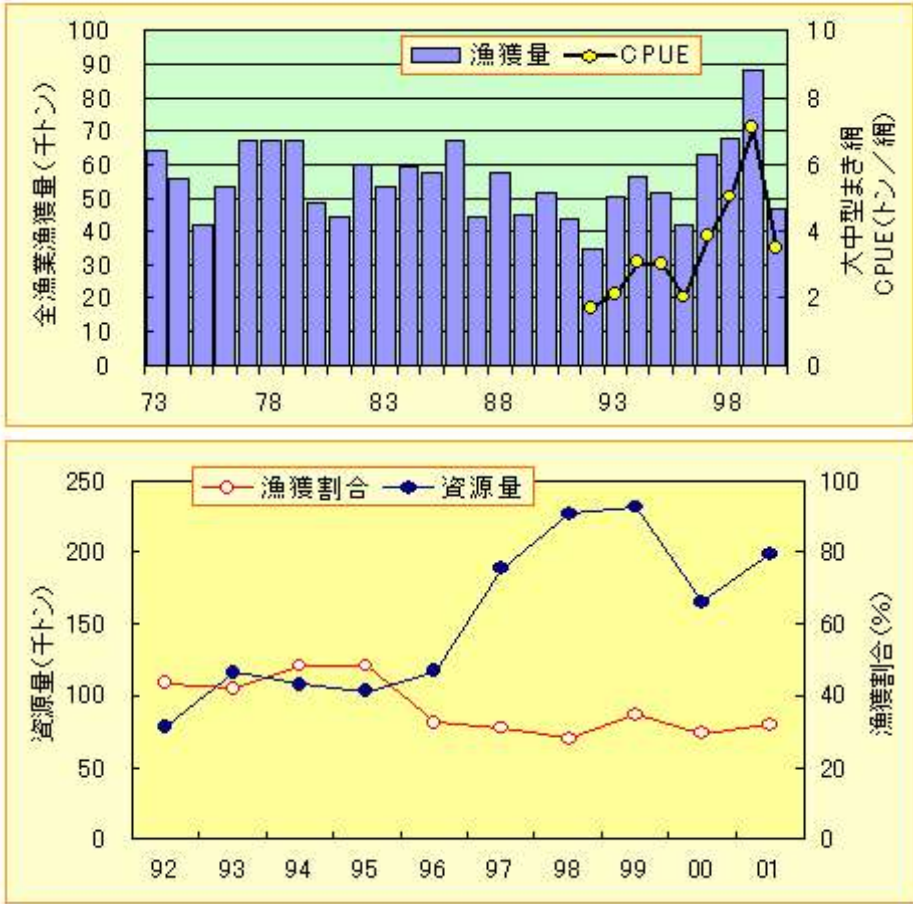
漁業の特徴

東シナ海・日本海のゴマサバ漁獲の大部分はまき網漁業による。マサバよりやや南方に

分布し、主漁場は東シナ海から九州南部沿岸域である。これまで、浮魚資源に対する努力量管理が、大中型まき網漁業の漁場（海区制）内の許可隻数を制限するなどのかたちで行われてきた。さらに1997年から、マサバと併せてさば類についてTACによる資源管理が実施されている。

漁獲の動向

東シナ海・日本海における我が国のゴマサバ漁獲量は、年変動はあるものの、1980年代以降およそ5万トン前後で漁獲量は推移している。2000年には1999年の88千トンから46千トンと大きく減少したが、2001年には64千トン（概算値）に回復した。韓国は2001年に20万トン（多くはマサバ）、中国は2000年に35万トンのさば類を漁獲した。



資源評価法

漁獲量、漁獲努力量の情報や漁獲物の生物測定結果から、年齢別の漁獲尾数による資源解析（コホート解析）を行った。コホート解析は、1～12月を1年として0から3歳以上の4年齢群について、漁獲方程式を数値的に解くことにより資源尾数・重量を計算した。0歳・1歳の最近年のFは1999年と2000年の平均とし、2歳のと3歳以上のFは、まき網のCPUEの変動と計算される資源量の変動が最も合うように決めた。韓国・中国の漁獲は考慮していない。

資源状態

東シナ海のゴマサバ資源は、1992～1996年に10万トン程度であったが1997～1999年に増加して23万トンに達した。2000年は17万トンに減少したが2001年には20万トンに増加した。再生産成功率（加入量÷親魚量）の年変動は大きい、1998年以降は比較

的低い値が続いている。



管理方策

再生産成功率は1998年以降低い年が多くなっており、近年（1998～2001年）の平均的な再生産成功率のもとで、資源量の増加が期待できる漁獲水準で漁獲することを管理目標とする。大中型まき網の減船により、それを考慮した現状の漁獲係数であれば、仮定した再生産成功率のもとで資源の増加が期待できるので、Fcurrentを資源管理基準としてABCを算定した。

	管理基準	A B C（トン）	漁獲割合	F 値
A B C limit	Fcurrent	60,000(58,000)	31%	0.45
A B C target	0.8 Fcurrent	50,000(49,000)	26%	0.36

ABC()内は我が国EEZ内のもの

F値は各年齢の単純平均

漁獲割合 = ABC / 資源重量

資源評価のまとめ

- 1998年以降、再生産成功率が低い年が多い
- 資源水準は中位なので資源を増加させる
- 現状の漁獲係数であれば近年の再生産成功率のもとでも資源の増加が期待できる
- 韓国・中国の漁獲は詳細が不明であり資源評価で考慮していない。この情報が加われば全体のABCが変わる可能性あり

管理方策のまとめ

- 近年の再生産成功率に見合った漁獲水準で漁獲すべき
- 親魚量を確保し、資源の増加を図る
- 現状の漁獲係数での漁獲を限界として漁獲する